

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】(ユニット1)

Table with 2 columns: Field Name and Value. Fields include: 事業所番号 (0190503334), 法人名 (株式会社リビングプラットフォーム), 事業所名 (グループホームライブラリ月寒中央 I), 所在地 (札幌市豊平区月寒東3条9丁目1番10号), 自己評価作成日 (令和6年1月), 評価結果市町村受理日 (令和6年3月13日)

※事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度の公表センターページで閲覧してください。

Table with 2 columns: Field Name and Value. Field: 基本情報リンク先URL (http://www.living-platform.com/)

【評価機関概要(評価機関記入)】

Table with 2 columns: Field Name and Value. Fields include: 評価機関名 (企業組合グループ・ダイナミクス総合研究所 介保調査部), 所在地 (札幌市手稲区手稲本町二条三丁目4番7号ハタナカビル1階), 訪問調査日 (令和6年2月20日)

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

入居者が穏やかに安心して暮らしていけるような、家庭的な雰囲気作りをしています。24時間オンコール体制で看護師や医療とも連携を取り、体調の管理なども行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

当事業所は、2019年10月1日に札幌市豊平区的美園地区から現住所に新築移転したグループホームである。建物の構造は、全3階建てで1階と2階は同法人のグループホームで、3階は会議室と職員の休憩室がある。当事業所は、1階の2ユニットのグループホームで、地下鉄東豊線月寒中央駅から徒歩圏内、近隣にスーパーやドラッグストアなどがある利便性のよい地区である。運営法人は、札幌市を中心に関東地区や東北地区に認知症高齢者グループホームや有料老人ホーム、居宅介護支援事業所などの介護事業、障がい者相談支援や就労支援B型事業所などの障がいサービス事業、保育事業など幅広く展開し、店頭公開したグループ会社で、培った経験を運営に活かしている。ホーム内は、正面にユニットの玄関があり、左側には相談室を設置している。事務所を挟んで左右それぞれユニットが配置されており、居室は、単独の個室と8つの個室が繋がっている構造で、採光や風通しもよく、「和」のテイストを取り入れた落ち着いた室内環境である。地域との繋がりは深められていないが、町内会への加入を機に地域に根付いた事業所になるようこれからの期待したい。

V サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取組を自己点検した上で、成果について自己評価します

Large table with 4 columns: Item No., Item Description, Assessment Scale (1-4), and Achievement Status (radio buttons). Rows 56-62 cover various service outcomes like staff-user relationships, safety, and user satisfaction.

自己評価及び外部評価結果

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念を作り、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	スタッフルームに掲示し、朝礼時に理念の唱和を行っている。	会社の経営理念、行動理念、事業所の理念などをスタッフルーム内に掲示し、朝礼で唱和している。職員が見えるように字を大きくしたり、朝礼に入居者も一緒に参加するなど工夫し、理念を共有して実践に繋げている。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	面会は徐々に緩和させている。町内会長には地域運営推進会議の文書を送っている。	地域とのつながりは、町内会長へ運営推進会議の資料を送付するのみとなっている。町内会の加入もできていない。	早期に町内会への加入を進め、町内会長とコンタクトを取り、地域の活動に参加するなどして事業所自体が地域の一員として日常的に交流できるよう期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	外部との交流はまだ行えていない。		
4	3	○運営推進会議を活かした取組 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組状況等について報告や話し合いを行い、そこの意見をサービス向上に活かしている	ご家族様へ参加出来るかお手紙を出している。開催曜日の意見もあり開催月によって曜日を変え参加しやすいようにしている。地域包括支援センターの方にも参加頂いている。	コロナが5類になったことで、会議の開催は対面での開催となっている。地域包括支援センターの職員や利用者家族が参加されており、開催曜日の変更などの意見や要望を聞き、サービス向上に活かしている。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に地域包括支援センター担当者に参加して頂き、定期的に情報交換している。	入居者家族の経済的虐待について、地域包括支援センターへ相談したり、市の担当者やメールにて空き状況を報告し連携を図っている。保護課の担当者へ生活保護受給者の利用状況を連絡するなどして、協力関係を築くよう取り組んでいる。	
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	毎月、内部研修として全職員に資料配布し意見を出してもらう等周知している。施錠はしていますが、入居者様が外に出たいなど要望があった場合はすぐに対応しています。	身体拘束抑制廃止委員会を毎月開催し、マニュアルや指針の見直しを行うとともに、今の利用者に当てはまるかどうか検証するなどして、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。また、内部研修として全職員に資料を配布している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入浴時の身体チェックや定期的な研修を行い防止に努めている。また入居者様に対する言葉使いについても十分に気を付けている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	今年度より年間計画からは外れたが研修資料は準備済み。年度内に実施し活用出来るようにする。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時には最低2時間かかることを伝えたくえで日時を調整し行っている。内容変更の際などもお手紙を併せて説明している。		
10	6	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	入居者様やご家族様よりいただいた意見を会議の議題にし話し合い、運営に反映出来るよう職員間で共有しています。かわら版は毎月発行。インスタグラムも適宜更新し情報を伝えている。	毎月発行の広報誌『かわら版』にて利用者家族へ利用状況を報告したり、面会に来られた際や電話などで意見を聞き取っている。いただいた意見は、ケア会議にて情報共有し運営に反映させている。	
11	7	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	3ヶ月に1度ペースで面談を行い、職員意見を聞き、その意見を反映できるよう努めている。有休も取得数を把握し全職員消化出来るようにしている。	3ヶ月毎の定期面談にて目標についての進捗状況を確認したり、毎月開催のケア会議で職員からの意見を聞き取っている。また、日常の業務の中でも聞き取るようにし、聞き取った意見を運営に反映させている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	面談後給与を上げたりしていますが、目標達成できない場合は上がらないことも伝えている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	入社1年以内の職員には新人研修。その後、社内で行っている初任者研修に無料で受講出来るので参加をして頂いている。1年間退職できない旨も伝えています。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組をしている	外部の研修には参加はしていませんが、社内の研修に参加し自事業所以外の職員と交流を図っている。		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居判定時にご本人様・ご家族様の要望を聞き取り、プラン作りを行っています。入居後間もなくも頻りに連絡し安心して頂いている。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	面会制限は徐々に緩和している。今年度はかわら版のページ数を増やしたりInstagramの更新をしたり電話連絡も定期的に行い関係性を維持している。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	プランの中に生活全般援助することを入れ、関わりの中で何が必要か見極めています。		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	介護士主体にならないようにご本人様の要望を聞き、共同生活のパートナーという関係を築けるよう支援している。		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	時間などの制限を設けてはいるがその時の状況に合わせ顔を見て話せる環境を作り関係を維持できるようにしている。		
20	8	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	いくらか制限はありますが少しずつ面会で出来る事を増やしています。条件付きで外出も可能なので馴染みの場所への支援も今後検討したい。	社内の全事業所が一つの体育館を借りて運動会を開催したり、制限はあるが直接面会ができるようになったり家族との外出や外泊もできるようにするなどして、馴染みに人や場との関係が途切れないよう支援に努めている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一人一人の関係性を把握しトラブルになる前に席替えなど行っています。他者と同じ時間を共有出来るようレクなども頻回に行っている。		
22		○関係を断ち切らない取組 サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退居後も関わりやすい関係づくりをしています。		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	9	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	ご本人様の気持ちをくみ取れるよう日々関わる時間を大切にしながら支援を行っています。	日々の生活の中で会話の中から気持ちや意向を聞き取っている。困難な方は、電話にて家族へ連絡し意向を確認するなどして、本人や家族の意向を介護計画に反映させている。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様の慣れ親しんだ生活ができるように生活歴の把握に取り組んでいます。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	援助している中でのご本人様の変化などを申し送りをでしっかり行い、職員同士で把握しています。		
26	10	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	ご本人様やご家族とも話し合いケア会議などでアセスメントをしっかり行いモニタリングの結果からケアプランを作成している。	サービス内容についての実施状況を日常の業務内で確認している。毎月のモニタリングやアセスメント、ケア会議内で担当者会議を実施し、計画作成者が取りまとめ、介護計画の作成を行うなどして、現状に即した介護計画を作成している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日常の様子を毎日記録し、変化・様子を把握する。申し送りで職員間の情報共有や交換、計画の見直しなど行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスにとられない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	訪問理美容や訪問マッサージなど、個々に合わせたサービスを利用している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	医療分野では薬局やマッサージ、訪問歯科。他に介護タクシーや訪問美容を利用。買い物などは中々行えていないが徐々に増やしていきたい。		
30	11	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	メインの医療機関は訪問診療に切り替えてもっているが以前利用していた専門医など気軽に受診出来るように関係を築いている。	契約時にかかりつけ医についての説明を行っている。本人及び家族によっては、これまでのかかりつけ医を継続するなど、本人や家族の希望を大切にしている。受診支援が必要な時は、送迎を行い適切な医療が受けられるように支援している。	
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日常生活で生まれた気づき、職員・看護師・管理者間で情報共有し適切な対応が行えるよう対応している。体調の変化があった際は24時間で看護師が対応、指示を仰げる環境にある。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている、又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	提携医療機関は入院施設もあり、24時間対応可能となっています。主治医からのご家族様へのお話する時間も設けています。		
33	12	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者とともにチームで支援に取り組んでいる	早い段階から情報共有を密に行い、主治医を話す時間を設けるようにしている。	契約時に終末期についての意向を確認している。また、重度化した際には、かかりつけ医と共にご家族へ病状の説明を行うとともに、家族の意向を確認するなどして、チームで支援に取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	定期的に看護師発信の研修を行い急変時に落ち着いて行動出来るようにしている。		
35	13	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	環境にあった方法の見直しを行いながら年2回以上の訓練を消防署指導のもと行っている。BCPの作成は今年度中に終わられるよう進めている。	年2回の日中・夜間想定での避難訓練以外にも、災害を想定した自主訓練を非定期で実施している。BCPの作成については概ね完成しており、3月までに完成予定。	BCPの作成を早期に行うとともに、備蓄の保管場所や管理体制についても検討できるよう、BCPIに基づいた避難訓練の実施ができるよう期待したい。
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	14	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	生活歴から個人の性格等を意識し、人格を尊重した声掛けを行っている。新人研修にも接遇研修があり、厳しく指導をして対応している。	一人ひとりの人格を尊重した言葉かけができていないか、日々の業務や朝礼の中で確認している。職員同士が相互に注意し合う環境作りをし、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	選択肢を増やしたり日々の情報をもとに利用者様の意思が乗った会話になるよう努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望に沿って支援している	ご本人様のペースに合わせ過ぎていただくよう支援しています。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	訪問美容などに来てもらっています。ご本人様にお洋服など選んでいただいています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
40	15	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	「食べたい」と言ったメニューを実現出来るよう臨機応変に変更しています。また調理も出来る範囲で参加して頂いています。	誕生日や行事の際に、利用者の希望を聞き、近隣のスーパーへ食材の買い出しに行っている。また、可能な方は、一緒に食器洗いや食器拭きをしたり、自身で食べることが出来るような食具を購入するなど、個々の好みや力を活かせるよう工夫している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	業者さんを利用し、栄養管理は行っています。食事形態なども都度合わせています。水分も本人の体重を把握し不足しないよう努めています。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、口腔ケアを行い清潔を保っている。歯科往診や衛生士による口腔ケア時に情報交換や指導をしていただいている。		
43	16	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	トイレで排泄出来る人は必ずトイレを利用し、時間を見て排泄誘導を行い、汚染なく過ごせるようにしている。	できる限り失敗すること無くトイレで排泄できるように、排泄チェック表で個々の排泄パターンを把握して声掛けや誘導して対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	極力、薬に頼らないように毎日オリゴ糖や体操など、その人に合った方法を行っています。		
45	17	○入浴を楽しむことのできる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に沿った支援をしている	希望の時間には添えないこともありますが、入浴を楽しんでいただけるよう、準備段階からの関わり入浴剤を選んで頂いたりしています。	週2回の入浴を基本とし、その日の体調や気分によって入浴日を変更するなどして、臨機応変に対応している。浴室の壁に絵画の画像を貼って楽しんでもらえるよう工夫したり、リフト浴での入浴も可能であり、個々に沿った支援をしている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	体調に配慮しながら適度に休息の時間を設け、昼夜逆転しないよう配慮している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	服薬チェック表を使用しセット・与薬・確認をダブルチェックし、ご本人様が安全に服薬できるようにしています。		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	日常の様子、会話より会議で本人の可能性を職員間で検討し、モニタリングを通しながら楽しく過ごし意欲が出るよう取り組んでいる。		
49	18	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望に沿って、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	少人数での散歩など現在できる支援は行っている。今後の感染状況を見ながら、季節に応じた外出行事をする予定である。	外出は、少人数で散歩へ行ったり、近くのスーパーへ一緒に買い出しに行くなど、可能な範囲で行っている。家族と一緒に外出することも可能となっており、本人の希望を把握して家族と協力しながら出かけられるよう支援している。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お小遣いは預かっていません。個人で持っている方はお買い物時支払作業をして頂いている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望時は随時対応している。		
52	19	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間の飾りつけは常に季節感を意識し日々楽しんで過ごせるようにしている。	共用空間である玄関は、落ち着いた雰囲気があり、リビングには壁や天井に季節ごとの飾り付けをされている。飾りは毎月変更するなどして、日々楽しんで過ごせるよう工夫されており、利用者一人ひとりが穏やかに過ごせるような環境作りをしている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	職員間で情報を共有し、性格・行動を配慮し気の合った入居者様同士楽しく過ごせるよう座席を変えたり工夫している。		
54	20	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	可能な限り使い慣れたものを持ち込んで頂き使用して頂いている。	居室は、可能な限り使い慣れた家具や備品を持ち込んでいただいている。清掃も行き届いているため清潔感があり、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	日々、その人がどうすれば認知出来るか情報共有し臨機応変に変更し自立を支援している。		